

おとなと子どもでライフジャケット体験講座 開催しました！



- 日時 令和5年6月4日(日)10:30~12:00
- 場所 瀬戸内スイミングスクール木太校(高松市木太町)
- 講師 直江 宏二氏 (香川ライフセービングクラブ)
大西 憲太郎氏 (瀬戸内スイミングスクール)
- 講師アシスタント 青木 郁子氏 (香川ライフセービングクラブ)

6月4日(日)、瀬戸内スイミングスクール木太校にて、おとなと子どもでライフジャケット体験講座を開催し、子どもと保護者あわせて24名が受講しました。夏は海・山・川など、アウトドアでのレジャーを楽しむ機会が増える季節です。本格的な夏に突入する前に、ライフジャケットの正しい身につけ方や、実際に保護者の方も子どもと一緒にライフジャケットを着用してプールで泳ぎ、水辺で自分の身を守る方法を学びました。

講師の紹介のあと、水辺の安全に関するクイズを行いました。水難事故にあうのは水泳や水遊びをしている時よりも魚とりや釣りをしている時の方が多いそうで、受講者たちは意外な答えにとっても驚いた様子でした。水に入るつもりがないのに、誤って入ってしまった時に事故が起こりやすく、水辺に行く時は必ずライフジャケットを身に付けよう解説がありました。



次に、ライフジャケットの安全性について動画を見ながら解説していただきました。ライフジャケットのサイズが大きすぎたり、チャックを上まで引き上げていなかったり、ひもや留め具をきちんと留めていないとライフジャケット本来の性能が生かせず溺れてしまうと説明がありました。また、ライフジャケットの有無による落水の違いや、水中でのライフジャケットの着用方法、なぜため池で溺れてしまうのかについても解説がありました。参加した子どもたちもクイズの時の表情とは違って変わり、真剣な様子でした。



その後、プールへ移動しました。受講者たちはライフジャケットが正しく着用できているか確認したあとプールサイドから立ったまま背面から落水し、ライフジャケットの浮力を体験しました。次は、目をつぶった状態で人に押ししてもらいました。思いがけず水中に落ちてライフジャケットを正しく着用し、冷静に対処すれば安全であるということを実感したようで、初めは表情が硬かった子どもたちも次第に笑顔が見られるようになりました。さらに、ライフジャケットを着用した状態での水中での移動の仕方や、集団で救助を待つ時の方法を学びました。

続いて、講師より水中でのライフジャケットの着用方法についてデモンストレーションがありました。水に浮かんでいるライフジャケットを仰向けの状態で袖を通し、チャックやベルトを締めます。簡単そうに思えますが、水中での着用は難しいようで保護者も子どもたちのサポートをしながら一緒に体験しました。水に慣れてきた頃、受講者全員でゲームをしました。全員で円を描くように泳ぎ、講師の笛の合図で浮かんでいるライフジャケットを掴んで水面で着るといった水中での椅子取りゲームです。ライフジャケットを着ることができた受講者は小さな円になり、救助を待ちました。最後に、救助に使用されるニッパーボードの扱い方などを楽しみながら体験しました。



講座終了後、受講者からは「ライフジャケットの安全性が理解できた」、「いろんなことが体験できたし、もっとやりたかった」などの感想が寄せられました。座学と実技講習を通じて「自分を守る」だけでなく、「仲間を守る」知識と技術を学ぶ事ができました。